

ひかりのこ

8,9月園便り

認定こども園
聖ミカエル幼稚園
2022年8月18日

月主題：祈り合う、のびやかに

「ゴミと想像する力」

先日車を運転していて、ショックなことがありました。走行中、前の白い車の運転席から手が出て、ポイツと紙コップが捨てられたのです。運転中でしたので、ドキッとしました。そして初めて道にゴミがわざと捨てられる現場を目の当たりにして色々考えました。

幼稚園の前のごみを捨ったり、自分の畑に捨てられているゴミを捨ったりするときも、いつも考えてしまいます。「どうしてこのゴミはゴミ袋ではなく、道路に捨てられていたのか。

たまたま、気づかないうちにポケットから落ちてしまったのか。ゴミ袋の結び方が緩くて、風やカラスにやられたか。」これなら私もうっかりやっけてしまっているかもしれません。

「またはゴミを持っていることが嫌で、わざと捨てたのか。」

そしてもっと考えました。「わざと捨てた人は、自分の捨てたゴミがその後どうなるのか想像したことがあるのだろうか。」「自分と全く何にも関係ない人が拾って処理してくれることを想像できたのか。」

「想像する力」。この力はやはりとても大事です。「想像する力」があれば、他人を思いやることができます。自分の言ったことや、やったことが周りにどう影響するのか考えることもできます。幼稚園の子どもたちは毎日いろいろな失敗やお友達とのトラブルと出会います。反対に成功体験や、お友達からの優しい声かけや態度に安心する経験とも出会います。また、絵本をたくさん読んでもらう中で、日常では経験できない場面や、気持ちを経験します。この「良い、深い経験」こそが「想像力」の源になるような気がします。

白い車のお兄さんも、どこかで「良い深い経験」を重ねられればいいなあ、と願います。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

「聖ミカエル幼稚園の不思議」

8月の最初の日曜日、一人の女性が教会で洗礼を受けました。その方は元ミカエル幼稚園の先生、40年前に働いていた方でした。別にこちらから声をかけたわけではありません。現役の頃、今と同じように聖書のお話しをしたり、教室で子どもたちと一緒に祈りをしていました。もちろん、それは仕事だったから。でも、心の中では、仕事を超えて自分に響いてくる「声」を聞いていたそうです。いつか、心の整理ができれば教会に繋がってみたいという思いをずっと持っていたといいます。

退職後、いろいろな出来事があり、荒波を超えて、人生が後半にさしかかり、いよいよその時が来たと感じたそうです。残りの人生を、自分が昔、子どもたちに伝えてきたイエス様の愛に包まれて生きてみたい、そう思って、数十年ぶりに教会の扉を開けて、戻って来られたのです。

私は嬉しさと同時に不思議な気持ちになりました。そんなことがあるんだなあ。「神の業は、時に適って美しい」。聖書の言葉です。そして、「すべてのことには時がある」という言葉もあります。人が想像もしないところで、神さまが蒔いた種は必要な時間を経て芽を出すことがあります。

ちなみに、当時の幼稚園は、今のピカピカの園舎とは似ても似つかない「劣悪な」環境だったそう。それでも子どもたちは生き生きと遊び、先生たちも輝いていました。どんな時代も素敵な幼稚園でありますように。

チャプレン 司祭 下澤 昌

